

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

展示会の全体像について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立民族学博物館, National Museum of Ethnology 公開日: 2009-04-28 キーワード: 作成者: 朝倉, 敏夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001867

展示会の全体像について

朝倉 敏夫

1 はじめに

研究懇談会で特別展「2002年ソウルスタイル」についての展示の側面における評価の会をもっていただきありがとうございます。この特別展については、7月13-14日に研究フォーラム促進プログラムの一環として国際シンポジウム「現代韓国社会における生活文化の研究とその方法——『2002年ソウルスタイル——李さん一家の素顔の暮らし』展を通して」を開催し、研究の側面において検討・評価をいたしました。

今日はまず、この特別展のプロジェクトリーダーとして私が特別展の概要を簡条書き式におさらいし、次いで展示デザインを担当していただいた大野木先生から展示デザインをどのような構想でなされたのか、主なポイントを紹介していただきます。そして、展示ボランティアとして参加していただいた黒田和男さん、ハンゲル教室のボランティアとして参加していただいた李昌勳さん、観客として何度も来ていただいた金昌代さんに、それぞれ日本人、韓国人、在日コリアンという立場からも、今回の展示についての感想・ご意見を忌憚なくお話いただきたいと思います。

2 展示目的

2002年「日韓国民交流年」にあたり、日韓両国民の相互理解に資する目的で展示を開催した。そのため韓国国立民俗博物館でも「近い隣の国、日本」（2月20日～5月6日）を開催し、これについては4月14日に評価シンポジウムを行った。

3 展示期間

2002年3月21日～7月16日までの102日間とし、日韓共催FIFAワールドカップが開かれた2002年5月31日～6月30日を含む期間に開催した。

4 展示のための組織

(1) プロジェクトチーム：

朝倉敏夫，笹原亮二，佐藤浩司，重松真由美，吉本忍，
林史樹，李愛俐娥，金香来
大島会計課長，隅田展示企画課長・広報普及室長，鈴木ひろ子（千里文化財団），
入澤ユカ（INAXギャラリー），吉井佳容子（読売新聞大阪本社事業局），
大野木啓人，中西啓（京都造形芸術大学）

(2) 共同研究会「韓国現代生活文化の基礎的研究」：

朝倉敏夫，笹原亮二，佐藤浩司，
重松真由美，吉本忍，林史樹，李愛俐娥，金香来，朴昊遠，李善愛，浮葉正親，
大野木啓人，岡田浩樹，金相文，金柄徹，島村恭則，鈴木文子，洪賢秀

(3) 運営：

展示企画課（隅田，長坂みどり，宇治谷恵ほか），
展示企画係（宇江茂，西澤晴陽，吉本光太鷹，和田かおり，小森田東子）
準備室（上田紀子，後藤悠紀，鈴木早苗），アルバイト
学習支援室（青柳千子，安田純子，山村規子），ボランティアグループ

5 展示のコンセプト

展示の具体的な構想は，大野木，中西両先生にお願いした。

展示の出発点として，①ステレオタイプな理解を排すこと，②身近な「くらし」から理解していくこと，その道として韓国における生活習慣・行儀作法，ハングル，感情表現を知ってもらう。③現在を基点とする，の3つを考えた。

6 展示

展示設計（大野木，中西）

(1) 一階：李さん一家のくらし

a. アパートの再現・生活財調査データ（佐藤）

b. 家族成員の生活空間：屋台，職場，墓，故郷の部屋，教室，市場，銭湯

(2) 二階：韓国に暮らす人の一生 17のトピックス

韓国警察庁，ソウル市消防防災本部，リラ初等学校，大韓教科書，サンポシルバードリーム，ソウル特別市などからの出品協力があつた。

(3) 体験コーナー

- a.一階：ハングル教室（韓国人留学生，韓国人主婦などのボランティア），
 - b.二階：韓服試着，棺に入る，遊び（ハングルパズル，韓国全図パズル），読書（韓国を知る子ども用図書，童話，韓国版の日本のマンガ本など）
- (4) 映像展示（情報システム課）
- 映像資料制作（井ノ本清和，岡部望，エスバ）
- a.家族へのインタビュー
 - b.マルチメディア「李さん一家の素顔のくらし」
 - c.ハングル勉強ソフト（韓国国立民俗博物館からの借用）
- (5) 盤院初等学校の児童へのアンケート
- (6) みなさんの写したソウルの写真

→ 観客の見方がどのようであったか，二階にビデオカメラを設置するなど，動線調査をしてみるとよかった。例えば，引き出しを開けて見るかなど，男女，世代差による違いがあったようだ。

→ これだけの「もの」を提供してくれた李さん一家への関心からか，「家族へのインタビュー」の映像を熱心に見る観客の姿が多く見られた。展示資料と映像資料とのよい補完関係となっていたように考える。

7 関連事業

- (1) 「みんぱくシヂャン（市場）」
- 蔡淑美（委員長），朝倉，岡田，金香来，隅田，
田部井（ホロニック），張哲男（大阪韓国商工会議所），吉井
- 地下の活用：
- 団体客が昼食をとる場であり飲食可
日韓食関連企業の協賛・協力
味の素，日清食品，モランボン，徳山物産，有紀食品，エスビー食品，
エバラ食品工業，ミツカン，ARAGAYA Co.,Ltd, Bae Sang Myun Brewery Co.,Ltd,
CHEIL JEDANG, Cookand, BEST HOME Inc, 農心ジャパン, Nooodle-Lovers Inc,
OTTOGI CORPORATION, SEMPPIO FOODS COMPANY
韓国農水産物流通公社，韓国観光公社の協力
みんぱくレストランの出店および販売
ミュージアムショップ（千里文化財団）との関係
- (2) 「みんぱくマダン（広場）」
- 金相文（委員長），朝倉，高正子，島村，林，隅田，

安聖民, 鄭甲寿 (ワンコリア), 吉田光一 (読売新聞社)

前庭の活用:

来館者の誘導も目的

天候状況によるエントランスホールの活用:

照明, 舞台の設営 定期公演:

日曜・休日 安聖民, 金姫玉舞踊教室, 在日同胞民族文化牌マダン

不定期公演 (公募):

学校サークル, 地域マダンなど

「ワンコリアフェスティバル イン みんなく」:

4月7日 日韓・食のフォーラム 講師:

道場六三郎, 韓福眞, 鄭大聲, 石毛直道

マダン劇団「ノリペ シンミョン」公演

研究公演:

5月19日「固城五広大」(高正子) →映像資料を作成する。

(3) フォーラム

3月23日 「私たちの家よろこそ——李さん一家とすごす一日」

(4) みんなくゼミナール

4月20日 朴昊遠・島村恭則「展示の中の日本 (イルボン)」

5月18日 都築響一・佐藤浩司「東京スタイル vs ソウルスタイル」

6月15日 朝倉敏夫「ソウルスタイル 1979-2002」

(5) 友の会講演会

4月6日 金美善「韓国人の言語生活と韓国語」

5月11日 林史樹「韓国で移動商人が活躍できるのはなぜか」

6月1日 金香来「現代韓国の葬式事情」

8 ボランティア (学習支援室)

日本人の方, 韓国からの留学生および主婦の方々など, あわせて83名の方が登録され, 毎日午前10時から16時30分まで, 展示場には6名, ハングル教室には2名がローテーションで活動した。

ボランティアの方には, まずは「いらっしやいませ」「どうぞお座りください」という声を来館者にかけていただくようお願いした。

9 広報（広報普及室）

- (1) 広報戦略：万博公園来園者，在日韓国朝鮮人，平日は近隣の学校
顔・名前に見える人を通しての広報
その対応（準備室）
- (2) ポスター，チラシなど（入澤，勝井三雄事務所）
- (3) ホームページ（ホームページ編集事務局）
- (4) マスコミ 新聞：朝日，読売など
雑誌：Newsweek など
TV・ラジオ：NHK など
- (5) 教育委員会，学校，公民館
- (6) 口コミ

10 図録（千里文化財団）

2002年3月19日に朝倉敏夫・佐藤浩司編著『2002年ソウルスタイル』財団法人千里文化財団から発行。

11 その他

- (1) みんなぱっく「ソウルスタイルパック」（佐藤優香，加藤謙一，日展）

全国の小・中学校，高校で国際理解を深める授業などに役立ててもらうため，世界の国や地域の生活道具をスーツケースに入れた学習キット「みんなぱっく」の一つとして，ソウルの小学生の一日をテーマにした「ソウルスタイルパック」を作り，全国に貸し出した。

2002年8月1日に「みんなぱっく」研究交流会において，「ソウルスタイルパック」について学校現場の声を聞き，今後の運用や開発の参考となるような情報を得る場をもうけた。

大阪市立住之江小学校の畑勝美先生から，「2002年ソウルスタイル」を見学してこのパックの存在を知り，「ソウルスタイル・おおさかスタイル」というテーマで行った授業のまとめとして利用し，ソウルと大阪の心の距離が確実に縮まったと実感できたという報告があった。また芦屋市立宮川小学校の野村まゆみ，辰巳容子，西崎節子先生から，2年生と4年生の交流を目的とした「イ・サーマダン」をひらこう」という総合学習での取り組みの導入部分でこのパックを利用し，韓国文化への子どもたちの興味付けに役立ったことが報告された。

- (2) ワークシート (金相文・林史樹) : 「小学生用」「中学生用」「一般用」の3種類
- (3) 『こりゃ KOREA!』(佐藤浩司・清水郁郎) : 創刊号 (2002年3月3日) から最終号 (2002年8月27日) まで20号と番外

12 評価

- (1) アンケート→未分析
- (2) 『ミュージアム・マガジン ドーム』63号

13 おわりに——プロジェクトリーダーの独白

今回のプロジェクトの概要を箇条書きにしてみた。() 内にそれぞれの担当者名を記したが、ほんとうに多くの人の手によって、そしてここには記せなかったさらに多くの人の協力によって、このプロジェクトがなりたっている。まずはここに感謝の意を表する。

そして誰よりも、展示のハイライトとなった李さん一家にお礼を申し上げねばならない。当初の案では、ソウルのアパートにおける生活財調査を佐藤さんに依頼したが、展示までは考えられず、テレビのホームドラマのセットを借用、あるいは住宅展示場の再現を考えていた。佐藤さんによる生活財調査に協力していただいた李さん一家が、彼らの生活財のすべてを提供してくださったことにより、ソウルの「あるがまま」の家族の姿を展示するまでにいたった。また、ドンファとウィジョンが通うソウル盤院初等学校からも特別な協力をいただいた。

アンケートの分析はまだできていないが、ざっと目を通しただけでも李さん一家への感謝の言葉が多く見られた。と同時に、今回の企画のような展示を他の地域においてもやってほしいという要望が見られ、パンドラの箱を開けてしまったかのような気もする。また、アンケートでは、韓服の試着、ハングル教室など体験できるところが最も好評であった。特別展では、「もの」の展示ともに体験できるような装置が必須になってきている。

それに加えて、今回は「みんぱくシチャン」「みんぱくマダン」といったイベントを充実させた。「みんぱくシチャン」では、これまでにできなかった味覚の展示に近づくことができた。「みんぱくマダン」では、ことに在日コリアンの出演者の多大な協力のおかげで、多くの観客に喜んでもらえたが、在日コリアンの観客のなかには演奏にあわせて身体がうごきだし、心から楽しんでいる姿をみることができた。

「みんぱくシチャン」は、ことに実行委員長の蔡淑美さんに多大なご努力をいただい

た。また、日本の企業からの協賛および出品協力をいただいたが、ことに日清食品、味の素からは多額の協賛をいただいた。また、韓国の公社、企業からも出品協力をいただいたが、韓国農水産物流通公社大阪農業貿易館、第一製糖からは人員を派遣して積極的な協力をいただいた。「みんぱくマダン」では、ことに安聖民、金姫玉舞踊教室、在日同胞民族文化牌マダンの皆さんにお世話になった。ここに記して感謝したい。

こうしたイベントは、もっぱら土・日に行われたが、そのための対応人員、設備の準備などが不備であったことは否めない。今後、特別展だけでなく、博物館への観客は土・日に多いことを念頭においた対処が必要と考える。

また、これからの展示においては、映像の利用が多くなるだろう。とすれば、情報システム課の協力が不可欠となるが、プロジェクトチームに情報システム課が入っていない。また展示企画課長は広報室長を兼ねているが、実際の実務は展示企画と広報とは別体制になっている。プロジェクトチームで事業を推進するうえでは、その組織体制の構成の見直しも必要であろう。

最後に、プロジェクトリーダーとして、後援、協賛、協力、出品協力をいただいた関係各位にあらためて感謝するとともに、みんぱくのスタッフをはじめ、現場でそれぞれに努力を惜しまずがんばってくださった皆さんにお礼を申し上げたい。

文 献

佐藤浩司

- 2002 「特別展『2002年ソウルスタイル——李さん一家の素顔のくらし』」空前絶後の大我楽多展はなにをめぐす『博物館研究』37(4): 21-22。

전시회의 전체상에 대해서

朝倉 敏夫

1 들어가며

연구간담회에서 특별전 「2002 년 서울 스타일」에 대한 전시의 측면에 있어서의 평가회를 가질 수 있게 해 주셔서 감사합니다. 이 특별전에 대해서는, 7 월 13 일·14 일에, 연구 포럼 촉진 프로그램의 일환으로서 국제 심포지움 「현대 한국 사회에 있어서의 생활문화의 연구와 그 방법——「『2002 년 서울 스타일——이선생님댁의 살림살이를 있는 그대로』전을 통하여」를 개최하고, 연구의 측면에 있어서 검토, 평가를 하였습니다.

오늘은 우선, 이 특별전의 프로젝트 리더로서 제가 특별전의 개요를 항목별로 재정리하고, 이어서, 전시 디자인을 담당하신 大野木선생님께서 전시디자인을 어떠한 구상으로 하였는지, 주된 포인트를 소개하시겠습니다. 그리고, 전시 지원자로서 참가해주신 黒田和男씨, 한글교실의 자원봉사자로서 참가해주신 이창훈씨, 관객으로서 몇 번이나 와 주셨던 김창대씨께서 각각 일본인, 한국인, 재일 코리안이라는 입장에서, 이번의 전시에 대한 감상과 의견을 기탄없이 말씀해주시겠습니다.

2 전시목적

2002 년 「일한 국민교류의 해」를 맞아, 일한 양 국민의 상호이해를 위한 목적으로 전시를 개최했다. 한국 국립 민속 박물관에서도 「가까운 이웃 나라, 일본」(2 월 20 일-5 월 6 일)을 개최하고, 이것에 관해서는 4 월 14 일에 평가 심포지움을 행했다.

3 전시기간

2002 년 3 월 21 일 ~ 7 월 16 일까지 102 일간, 한일공동개최 FIFA 월드컵이 열린 2002 년 5 월 31 일 ~ 6 월 30 일을 포함하는 기간에 개최했다.

4 전시를 위한 조직

(1) 프로젝트 팀 :

朝倉敏夫, 笹原亮二, 佐藤浩司, 重松眞由美, 吉本忍,
林史樹, 李愛俐娥, 金香來
大島희계과장, 隅田전시기획과장·홍보보급실장, 鈴木ひろ子 (千里문화재단),
入澤ユカ (INAX 갤러리), 吉井佳容子 (요미우리신문 오사카본사 사업국),
大野木啓人, 中西啓 (교토조형예술대학)

(2) 공동연구회 「한국 현대생활 문화의 기초적 연구」:

朝倉敏夫, 笹原亮二, 佐藤浩司, 重松眞由美, 吉本忍
林史樹, 李愛俐娥, 金香來, 朴昊遠, 李善愛, 浮葉正親, 大野木啓人,
岡田造樹, 金相文, 金柄徹, 島村恭則, 鈴木文子, 洪賢秀

(3) 운영 :

전시기획과 (隅田, 長坂みどり, 宇治谷恵 외) ,
전시기획계 (宇江茂, 西澤晴陽, 吉本光太磨, 和田かおり, 小森田東子)
준비실 (上田紀子, 藤悠紀, 木早苗), 아르바이트
학습지원실 (青柳千子, 安田純子, 山村規子), 자원봉사자그룹

5 전시의 컨셉

전시의 구체적인 구상은, 大野木, 中西 두 선생님께 부탁드렸다.

전시의 출발점으로서 ①스테레오타입적인 이해를 배제하는 것 ②신변에 가까운 「삶」 에서부터 이해하여 가는 것 ③현재를 기점으로 한다, 는 세 가지를 생각했다.

6 전시

전시설계 (大野木, 中西)

(1) 1층 : 이선생 일가의 삶

- a. 아파트의 재현·생활계 조사 데이터 (佐藤)
- b. 가족성원의 생활공간 : 포장마차, 직장, 무덤, 고향의 방, 교실, 시장, 공중목욕탕

(2) 2층 : 한국인의 일생 17의 토픽

한국경찰서, 서울시 소방 방재 본부, 리라 초등학교, 대한교과서, 삼포실버드림,
서울특별시 등으로부터 출품 협력이 있었다.

(3) 체험 코너

- a. 일층 : 한글교실 (한국인 유학생, 한국인 주부 등의 자원자),
- b. 이층 : 한복시착, 관에 들어가기, 놀이 (한글퍼즐, 한국전도 퍼즐),
독서 (한국을 아는 아이들용 도서, 동화, 한국관의 일본만화책 등)
- (4) 영상전시 (정보시스템과)
영상자료제작 (井ノ本清和, 岡部望, 에스파)
- a. 가족에의 인터뷰
- b. 멀티미디어 「추선생님댁의 살림살이를 있는그대로」
- c. 한글 공부 소프트 (한국 국립 민속 박물관에서 차용)
- (5) 반원 초등학교의 아동에의 앙케이트
- (6) 여러분이 찍은 서울의 사진

→ 관객의 보는 방식이 어떠한가를, 이층에 비디오 카메라를 설치하는 등, 동선 조사를 해 보는 것이 좋은 방법이었다. 예를 들어, 서랍을 열어 보는가 등, 남녀, 세대 차에 따른 차이가 있는 듯했다.

→ 이만큼의 「사물」을 제공하여 준 이선생 일가에의 관심 때문인지, 「가족에의 인터뷰」 영상을 열심히 보는 관광객의 모습이 많이 보였다. 전시자료와 영상자료와의 좋은 보완관계가 되었다고 생각한다.

7 관련사업

(1) 「민박시장」:

蔡淑美 (위원장), 朝倉, 岡田, 金香来, 隅田

田部井 (호로닉), 張哲男 (오사카 한국상공회의소), 吉井

지하의 활용:

단체객이 점심식사를 하는 장소로서 마시거나 먹을 수 있는 곳

한일음식관련 기업의 협찬·협력 :

아지노모토, 닛신식품, 모란봉, 토쿠야마물산, 유키식품, 에스비식품,

에바라식품공업, 미즈칸, 아라가야, 때상면酒家, 재일제당, Cookand, BEST

HOME Inc., 농심일본, 먼사랑, 오투기, 샘표식품

한국농수산물유통공사, 한국관광공사의 협력

민박레스토랑의 출점 및 판매

뮤지엄 슝 (천리문화재단) 과의 관계

(2) 「민박마당」:

金相文 (위원장), 朝倉, 高正子, 島村, 林, 隅田,
安聖民, 鄭甲壽 (원코리아 페스티벌), 吉田光一 (요미우리신문사)

앞뜰의 활용 :

내관자의 유도 (誘導) 목적

날씨상황에 따른 현관홀의 활용 :

조명, 무대의 설치

정기공연 :

일요일·휴일 安聖民, 金姬玉무용교실, 재일동포민족문화패마당

부정기공연 (공모) :

학교씨클, 지역마당 등

「원코리아 페스티벌 인 민박」 :

4월 7일

한일·음식의 포럼 강사 :

道場六三郎, 韓福眞, 鄭大聲, 石毛直道

마당극단 「놀이패 신명」 공연

연구공연 :

5월 19일 「固城五廣大 (高正子) →영상자료를 작성하다.

(3) 포럼

3월 23일 「우리 집에 어서 오세요——이선생 일가와 보내는 하루」

(4) 민박 세미나

4월 20일 朴晁遠·島村恭則「전시 안의 일본」

5월 18일 都築響一·佐藤浩司「도쿄스타일 VS 서울스타일」

6월 15일 朝倉敏夫「서울스타일 1979-2002」

(5) 친구의 모임 강연회

4월 6일 金美善「한국인의 언어생활과 한국어」

5월 11일 林史樹「한국에서 이동상인이 활약할 수 있는 것은 왜일까」

6월 1일 金香來「현대 한국의 장례식 사정」

8 자원봉사자 (학습지원실)

일본인, 한국에서의 유학생 및 주부 등, 합쳐서 83 명의 자원봉사자가 등록되어, 매일 오전 10 시부터 16 시 30 분까지, 전시장에는 6 명, 한글교실에는 2 명이 로테이션으로 활동했다.

자원봉사자에게는, 우선은 「어서 오세요」, 「앉으세요」란 말들을 내관자에게 할

수 있도록 부탁했다.

9 홍보 (홍보보급실)

- (1) 홍보전략 : 万博공원내원자, 재일한국조선인, 평일은 근처의 학교
얼굴 이름이 보이는 사람을 통해 홍보
그에 대한 대응 (준비실)
- (2) 포스터, 전단 등 (入澤, 勝井三雄사무소)
- (3) 홈페이지 (홈페이지 편집사무국)
- (4) 매스컴 신문 : 아사히, 요미우리 등
잡지 : Newsweek 등
TV · 라디오 : NHK 등
- (5) 교육위원회, 학교, 공민관
- (6) 입소문

10 도록 (千里문화재단)

2002 년 3 월 19 일에 朝倉敏夫 · 佐藤浩司편저 『2002 년 서울스타일』 재단법인
千里문화재단 으로부터 발행.

11 그외

- (1) 민책 「서울스타일」 (佐藤優香, 加藤謙一, 日展)

전국의 초등학교, 중학교, 고등학교에서 국제이해를 위한 수업 등에 도움이
되기 위해, 세계의 나라, 지역의 생활 도구를 가방에 넣은 학습도구
「민책」의 하나로서, 서울의 초등학교의 하루를 테마로 한 「서울 스타일
책」을 만들어, 전국에 대여하였다.

2002 년 8 월 1 일에 「민책」 연구교류회에 있어서, 「서울 스타일 책」에
대하여 학교현장의 목소리를 듣고 이후의 운용과 개발의 참고가 될 만한
정보를 얻을 수 있는 장소를 설치했다.

오사카시립 住之江초등학교의 畑勝美선생으로부터, 「2002 년 서울 스타일」을
견학 하고 이 책의 존재를 알아, 「서울 스타일 · 오사카 스타일」이라는 테마로
행한 수업 정리로 이용하여, 서울과 오사카의 심적 거리가 확실히 줄어든
실감이 가능했다고 하는 보고가 있었다. 또한 芦屋시립 宮川초등학교의

野村마유미, 辰巳容子, 西崎節子선생님 으로부터, 2 학년생과 4 학년생의 교류를 목적으로 한 「이·사 마당을 열자」라는 종합학습에서의 관계맺음의 도입부분에 이 책을 이용하여, 한국문화에의 어린이들의 흥미 부여에 도움이 되었다는 보고가 있었다.

- (2) 워크시트 (金相文, 林史樹) : 「초등학생용」, 「중학생용」, 「일반용」의 3 종류
- (3) 『이거야말로 KOREA!』 (佐藤浩司·清水郁郎) : 창간호 (2002년 3월 3일) 부터 최종호 (2002년 8월 27일) 까지의 20 호와 번 외

12 평가

- (1) 양케이트→미분석
- (2) 『뮤지엄·매거진 돔』 63 호

13 맺으면서——프로젝트 리더의 독백

이번 프로젝트의 개요를 항목별로 정리해 보았다. ()내에 각각의 담당자의 이름을 기입하였으나, 정말 많은 사람들의 손에 의해, 그리고 여기에는 기입되지 않은 더욱 많은 사람들의 협력에 의해 이 프로젝트가 이루어졌다. 우선 여기에서 감사의 뜻을 표한다.

그리고 누구보다도, 전시의 하이라이트가 되었던 이선생 일가에게 감사의 말씀을 전하지 않으면 안 된다. 당초의 계획은, 서울의 아파트에 있어서의 생활재 조사를 佐藤씨에게 의뢰하였으나, 전시까지의 생각하지 않고, 텔레비전의 홈드라마 셋트를 빌리는 것이나, 혹은 주택 전시장의 재현을 생각하고 있었다. 佐藤씨에 의한 생활재 조사에 협력해 주신 이 선생 일가가, 그들의 생활재의 전부를 제공해 주신 것에 의해, 서울의 「있는 그대로」의 가족의 모습을 전시하기에 이르렀다. 또 동화와 의정이 다니고 있는 서울반원 초등학교로부터도 특별한 협력을 주셨다.

양케이트의 분석은 아직 이루어지지 않았으나, 대강 본 것만으로도 이선생 일가에의 감사의 말이 많이 보였다. 동시에, 이번 기획과 같은 전시를 다른 지역에서도 했으면 좋겠다는 요망이 보여, 판도라의 상자를 열어버린 것 같은 기분도 든다. 또 양케이트에서는, 한복의 시착, 한글교실 등, 체험 가능했던 부분들이 가장 호평이었다. 특별전에서는, 「사물」의 전시와 함께 체험 가능한 장치가 필수가 되어오고 있다.

이것에 더하여, 이번에는 「민박시장」, 「민박마당」이라고 하는 이벤트를 충실히 하였다. 「민박시장」에서는, 지금까지 할 수 없었던 미각의 전시에 가까이 가는 것이

가능했다. 「민박마당」에서는, 특히 제일 코리안의 출연자의 많은 협력 덕분에, 많은 관객이 즐거워할 수 있었고, 제일 코리안의 관객 중에서는 연주에 맞춰 몸을 움직이며, 마음으로부터 즐기고 있는 모습을 볼 수 있었다.

「민박시장」은, 특히 실행위원장의 蔡淑美씨가 많은 노력을 해 주셨다. 또한, 일본의 기업으로부터의 협찬 및 출품협력을 받았으며, 특히 닛신식품, 아지노모토로부터 많은 금액의 협찬을 받았다. 또, 한국의 공사, 기업으로부터도 출품협력을 받았으며, 한국농수산물유통공사 오사카 농업무역관, 제일제당으로부터는 인원을 파견받아 적극적인 협력을 받았다. 「민박마당」에서는, 특히 安聖民, 金姬玉무용교실, 제일동포민족문화재단의 여러분들의 신세를 졌다. 여기에서 감사의 말씀을 전하고 싶다.

이러한 이벤트는 전부 토요일과 일요일에 행해졌으나, 그 때문에 대응 인원, 설비의 준비 등에 부족한 면이 있었음을 부인할 수 없다. 이후, 특별전 뿐만 아니라, 박물관에 오는 관객은 토·일요일이 많다는 것을 염두에 두고 대처할 필요가 있다고 생각된다.

또, 이후부터의 전시에 있어서는, 영상의 이용이 많아질 것이다. 그렇다고 한다면, 정보시스템과의 협력이 불가결해지지만, 프로젝트 팀에는 영상시스템과가 없다. 또 전시기획과장은 홍보실장을 겸하고 있는데, 실제의 실무는 전시기획과 홍보는 별개의 체제로 되어있다. 프로젝트 팀에서 사업을 추진하는 이상은, 그 조직 체제의 구성을 재고할 필요가 있을 것이다.

마지막으로, 프로젝트 리더로서 후원, 협찬, 협력, 출품협력을 해 주신 관계자 여러분들께 다시 한번 감사하는 것과 함께, 민박의 스태프를 시작으로 현장에서 각각 수고해주신 여러분들에게 감사의 말씀을 올린다.

문 헌

佐藤浩司

- 2002 「特別展『2002年 서울 스타일 —— 이선생님 덕의 살림살이를 있는그대로』空前絶後の大我楽多展은 무엇을 목표로 하는가?」『博物館研究』37(4): 21-22.

